令和4年度　学校評価総括表　　伊丹市立有岡小学校

教育目標	心身ともに　たくましく　感性豊かに　主体的に行動できる子
重点目標	・学力の向上・豊かな心の育成・健康で安全な生活作り・教職員の業務改善（子どもと向き合う時間の確保）・学校運営協議会の充実

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と,授業改善	・基礎的,基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・国語学習を朝のチャレンジタイムとして実施する。 ・朝学習の時間に読書や本の読みきかせ、漢字学習を取り入れる。 ・学年ごとに教科横断的視点を取り入れた授業研究をする。講師の先生に指導助言を受け,研究を深め、発表する。 ・一人一授業を校内で公開し、授業力の向上に役立てる。 ・教職員同士で授業や学級経営について学び合う、ありんこcaféを実施する。 ・5.6年の算数で,新学習システムを活用し、少人数授業を実施する。 ・5.6年で教科担任制による授業を実施する。 ・PTAの学力委員会と連携し、放課後,児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年間を通じて,事前研究会,事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・教師全員が一授業を校内で公開する。 ・算数の少人数指導を実施し,算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい。」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて,「先生は,教え方にいろいろと工夫をしている。」と回答する児童が90%以上になる。 ・水曜広場広場を月1回以上開催する。土曜学習を月に1回以上開催する。	A	・サマースクールはコロナの関係で実施できなかった。 ・チャレンジタイムは朝の会と時間帯が同じなので専科教室への移動等もあり、確保しにくかった。 ・自主研修会（ありんこcafé）については、中堅・ベテラン教員を講師とし、ほぼ全職員の参加で行った。 ・学団で授業研究を行い、研究通信の発行により課題と成果を共有した。 ・各種研修会について職員の77%が授業に生かせていると評価した。 ・算数の少人数指導を実施し、個々に応じたきめ細やかな指導ができた。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が88%で、目標を達成できなかった。「先生は、教え方にいろいろと工夫している」と回答した割合については96%で、目標を達成できた。 ・保護者は「先生は基礎的な学力（読み・書き・計算等）をつけるように務めている」という設問に97%が肯定的に評価している。 ・学習習慣や生活習慣が確立されていない児童が一部見受けられ、学力差となって表れている。	・チャレンジタイムは、内容を限定せずに、弾力的に運用できる時間とすることが望ましい。引き続き、週3回朝のチャレンジタイムを行う。短い時間で確実に行うことができるような教材を工夫する。 ・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする学級づくりを目指した自主研修会を行っていく。 ・次の市内指定研究発表に向けて、学校全体での協働体制を工夫し、本校の課題に即したテーマを設定し、さらに授業改善の意識を高める。 ・学力向上プランを具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の少人数指導では、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・水曜広場や土曜学習の人材と時間を確保し、基礎学力の定着のため内容の充実を図る。 ・家庭の状況に合わせた家庭学習の定着に向けて宿題の出し方、保護者への働きかけを工夫していく。	・自己評価にとらわれず細かな改善策が計画されている。 ・児童、保護者ともに先生方の努力に対する評価は高い。 ・コロナの関係で生活や学習面で、様々な制限の中先生方がいろいろな工夫をされていた事が分かった。 ・朝の学習については有効と考えるので、今後も継続していただきたい。 ・算数の少人数は、教育的効果があるため引き続き継続をお願いしたい。 ・基礎的な学力定着や、学習方法の確立を先生方にはお願いしたい。一部の児童に学習習慣や生活習慣が確立していないので、保護者への具体的な働きかけが課題である。 ・家庭学習についての保護者向け講演会を企画してはどうか。 ・土曜学習での基礎学力の定着とは、具体的にどのようなことなのか、議論が必要である。 ・水曜広場は学校がどう関わっているのか、位置づけが分からない。
	思考力,判断力,表現力の育成	・思考力,判断力,表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の向上を図る。	・業間休みに図書室を開放したり,各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等,図書環境を充実させる。 ・理科で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。（自分の考えを持つための問題解決学習のあり方） ・各教科で言語力を高めるために,記述・説明する活動を充実させる。 ・根拠を基に考え、他者と交流しながら考えを深める学習をしていく。 ・授業のめあてを設定し、授業のふりかえりを書く習慣をつける。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・読書カードに読んだ書名を記入させ,読書を推進する。 ・1ケ月の読書目標数を12冊達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ,観察・実験の,結果を整理し,考察する活動を大切にする。（ノートや学習カードの活用） ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。	B	・貸し出しはコロナにより例年通り行うことはできなかったが、できる範囲で図書館利用を行い、成果として、1ケ月の読書目標数12冊は達成できた。高学年においてはページ数の多い本を読むため、冊数は伸び悩んだ。 ・貸し出しはできなかったが、家で本を読む習慣づけとして家読（うちどく）の取り組みをした。図書館のイベントを楽しむ児童が多かった。 ・教科学習の中で、多様な方法（コロナ禍での意見交流、個人思考の際の発問等）を工夫したり、子どもたちの表現に対する評価を意識することにより、子どもたちの気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では、問題解決学習を重視して取り組んだ結果、進んで課題解決の方法を考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・見たことや考えたことを文章にすることや、話し合いなど言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業の見通しを示したり、視覚による教材提示をおこなうなど、授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。 ・全国学力・学習状況調査より、問われている内容に即して解答したり、根気強く最後まで取り組むのが難しい児童が見受けられた。	・引き続き図書館の利用を促すようなイベントや図書の紹介をしていく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れたり、ボランティアによる読み聞かせを行ったりする。 ・学習指導要領でめざす「主体的、対話的で深い学び」に向けて、各教科の学習内容で、学びの履歴や児童の実態を的確に把握するとともに、それに即した具体的な指導計画（教材・教具、発問、学習形態等）をしっかりと立案して授業に臨む。 特に1時間の授業の中で、思考したり、表現したり、互いの考えを共有したりすることをとおして、学びを深める時間を確保していく。 ・授業の初めに目標を明確化し、それに対応した振り返りを行う。 ・学習マップを作成することにより、子どもも教師も既習事項（他教科、これまでの学年含む）を活かして思考を深めるとともに、見通しをもって学習を進められるようにする。 ・今年度学力学習状況調査から明らかになった課題をもとに、授業の中で根拠をもとに相手に伝わるように表現する力の向上に向けて、作成した学力向上プランを実践していく。	・知識の向上に向けて、書籍や辞書を使用した学びが有効を考える。 ・図書イベントは引き続き行っていただきたい。 ・読書目標の設定や本を読むことが楽しくなる方法を構築する。推薦図書の提案など良いと思う。 ・本を読むことを習慣化させることは、良いことだと思う。 ・いろいろなものを活用し、読書の習慣付けができると良い。学習マップの活用は効果的である。 ・読解力向上のため、読み聞かせや読書タイムを引き続きお願いしたい。 ・今後も子どもの実態に応じた研究を進めていただきたい。 ・図書室に、漫画要素の多い本を充実させてはどうか。 ・夏休み期間中の図書室解放の再開をお願いしたい。 ・コロナ禍での意見交流により、表現力が低下したように思う。視覚による提示など、表現力育成に努めていただきたい。 ・取り組みについては、PDCAサイクルで検証していただきたい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 ・地域の人材を活用し、より専門的な視点から授業をしていただく機会を持つ。 ・地域の教材を活用する。	・業務改善に取り組み、放課後の教材研究の時間を増やす。 ・授業で実際に経験したりふれあったりする機会を増やして意欲的な学びにつなげる。 ・学校と家庭とが連携し、児童のやる気を引き出していく。 ・家庭学習の意義や方法を保護者にも伝えていく。 ・スクールタクト、ミライシード等のアプリを、学習のねらいに即して活用する。 ・学校運営協議会を窓口とし、学校と保護者、地域が一体となって児童を育成していく。 ・教育課程に位置づけて、地域の人材を活用して授業を行っていく。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・自主学習を利用して予習復習の習慣をつける。 ・自主学習において、自分が興味を持って取り組んできたがんばりを認め、評価する。 ・授業の中に、実物に触れたり身の回りのものを取り入れたりする。	B	・授業の中でICTを活用することができたと答えた職員が93パーセントとなった。また、欠席児童や、学級閉鎖などの際にもタブレットを学習に活用できた。 ・保護者と連携し、家庭学習で繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、宿題の出し方や評価の仕方を工夫し改善する必要がある。 ・自主学習をする児童は増加傾向である。 ・全国学力学習状況調査の結果、教科学習を「好きだ」と肯定的に回答した児童数が少なかった。学習への興味・関心を高める必要がある。	・授業の中での効果的なICTの活用法（オンラインを含む）を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにするための研修を行う。 ・自主学習ノートを取り入れ、学校や家庭での自主的な学習時間の確保を図る。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し意欲の持続化につなげる。 ・家庭学習プリント配信システム（スクールタクト）の利用を図る。 ・子どもたちの興味関心を高める教材や教具を工夫するとともに、体験活動を重視し、地域や専門家など学校外の協力を得ながら、学ぶ楽しさを実感させ意欲を高める。 ・校区の歴史や産業に関心を持たせ、地域に対する愛着を育む。	・学習意欲の向上は家庭との連携も大事だと思う。保護者への意識付けも視野に入れて取り組んでほしい。 ・スクールタクトの活用は効果的だが、しっかり書いて覚える事も大切である。 ・授業の中でのICTの活用は、年々高まっているので、これからも取り入れた学習方法を期待する。 ・保護者に対して、スクールタクトやミライシードの活用を啓発する必要がある。 ・自主学習の仕方を具体的に知らせていただき、意欲につなげていただきたい。 ・ICTを利用することによって、学習意欲向上にどのようにつなげていくかが課題である。 ・欠席児童、学級閉鎖等、タブレットを活用できたことは良かった。 ・ICTの活用について、教員の温度差、保護者についても気になっている。 ・地域人材の活用について取り組みを進めていただきたい。
豊かな心・健やかな体	いじめ、不登校への対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切にする児童を育てる。	・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には,家庭訪問を行うとともに,保健室登校等、児童の負担にならないような登校を選択していく。 ・毎月生徒指導研修会（いじめ等）を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どもについての報告を行い、共通理解を図る。 ・児童がネットモラルを身につけられるような学習をして、ネットによるいじめ被害や嫌がらせを防いでいく。	・いじめアンケートの結果や教職員がいじめと認識した事案について、早期発見、早期解決する。 ・毎月1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数が0人になる。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 ・外部の講師を招いて児童へのネットモラルの授業を行う。	B	・生徒指導部会を毎月行うとともに、問題行動報告会を、月1回、職員会議前に行い、共通理解した。 ・欠席が30日を超える児童は12人だった。登校支援の職員や関係機関との連携を密にしたり、ケース会議によりアプローチを工夫するなどの方策が必要である。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が97%になり、目標を達成できた。 ・講師を招いて高学年児童を対象にネットモラルの授業を行った。	・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者と密に連絡をしたり、職員間で情報を共有化したりして、複数の職員で対応するなど、組織的な協力体制をさらに強化する。また、関係機関と随時連携を行う。 ・不登校児童へのリモート授業などの方策を探る。 ・保護者がより学校への相談がしやすくなるような体制作りに取り組む。	・家庭や関係機関との連携が大切である。子どもたちをお互いで見守る事が必要である。 ・いじめ、不登校などの相談が気軽にできる関係機関等の情報発信が必要である。 ・いじめはデリケートな問題である。大人が気がつかず傷ついている子どもいるので注意深く観察をしてほしい。 ・教師の関わりも大事だが、保護者も子どもとの関わりをしっかりやっていく必要がある。 ・子どもの居場所として「有っこのへや」の活用や関係機関との連携を進めていただきたい。 ・児童、教師、保護者でのミーティングを行ってみてはどうか。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・冬場の縄跳び運動や,外遊びを奨励する。 ・ボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体感させる。 ・放課後運動場を開放し、体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボール、大縄を配布する。 ・自分の動きを動画を見て確認したり、改善点を記録したりして効果的にタブレットを活用する。	・年間を通じて,児童主催の委員会を中心に全校ドッジボール大会等を入れる。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・タブレットを体育の授業にも取り入れる。	B	・遊具遊びを体育の準備運動や体育のカリキュラムに組み入れてはいるものの、コロナ感染症対策もあって十分に実施できなかった。、また、子どもたちがスポーツテストにおいて力を充分に発揮できるよう、市教委と連携し、スポーツテストのねらいや、やり方を教員が熟知するとともに、冒険教育の遊具や校庭の遊具の老朽化による危険を防ぐ対策も必要である。 ・コロナ感染対策を工夫しながら可能な範囲で、児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、PK大会を行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につながった。 ・業間休みや昼休みなど、前後の手洗いなどの感染症対策を行いつつ、各クラスに配布されたボールを使ったり遊具を使ったりして遊ぶ児童が増えた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・体育の時間に持久走を取り入れることが増えた。 ・体育の時間にもタブレットを活用する場面が増えつつある。体育の授業研究においても学びの蓄積に役立てることができた。	・サーキットトレーニング、持久走等のさらなるプログラム開発をすることで、児童にとって楽しく、魅力あるものにし、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・遊具の補修改善を進める。 ・児童主催の委員会活動で、楽しんで体を動かす活動や行事を業間休みに組み込んでいく。 ・体力向上を目指したプランを立て、学校全体で取り組む。 ・体育の授業において、より効果的なタブレットの活用方法を考えていく。	・体育の授業での、タブレットの活用を推進していただきたい。 ・タブレットは、動画撮影ができるため、体育の授業での活用は有効的である。 ・体力向上をねらった、ゲームのようなイベントが増える事を願う。 ・コロナ禍での体力低下が気になるため、楽しみながら体を動かせる環境づくりが必要である。 ・マスクをしない体力づくりができればと思う。 ・今後も体力の向上に努めていただきたい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・学校だよりを月1回以上発行し　学校情報を保護者に発信する。 ・,学校ホームページを月1回以上更新し,学校情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・有岡小学校区まちづくり協議会、すこやかネットに参加する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。 ・参観日やオープンスクールをコロナ情勢をみながら増やしていく。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを週1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。 ・PTAと連携し、土曜学習を月1回以上開催する。	A	・学校便りについては、月1回以上発行した。ホームページを週3回以上更新し、学校生活の様子を保護者に発信するとともに、PTAからの情報を発信したり、グーグルクラスルームの使い方について発信した。 ・コロナにより授業参観が学期に1回しか行えず、保護者に学校の様子を知っていただく機会が減った。オープンスクールは2日間に渡って実施できた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が96%になり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が93%になり、目標を上回った。 ・土曜学習を感染状況を鑑みながら10回実施した。また、漢字検定は今年度2回実施し、多くの児童が受検した。 ・登下校の安全指導や生活規律、あいさつなどについて、地域や保護者等協力を得ることができた。 ・全国学力・学習状況調査より、地域社会とのつながりが弱い傾向が見られた。今後、学校運営協議会と協働しながら地域に対する愛着を育む必要がある。	・学校便りに月の行事をよりくわしく掲載する。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・教職員や地域の方が共通認識のもとに一貫した指導を行うことができるように学校運営協議会等で協議する。 ・学校運営協議会による教育サポートプログラムを教育活動や環境整備に取り入れ、地域人材や教育資源の積極的な活用を行う。 ・指導計画をホームページに掲載するなど、学校の教育活動を広く地域に発信し、教育活動への理解と参画を得られるようにする。	・保護者アンケートにて、目標を超えていたので、今後もHPなどの情報発信を行い、保護者、地域の方の協力を得る努力を続けてほしい。 ・学校生活をHPで配信しているため、学校の様子がよく分かる。 ・保護者向けに、学校外のイベント情報の発信がありがたい。 ・来年度は、オープンスクールの日をもう少し増やしていただきたい。 ・地域にも発信できる仕組みがあればよいのだが。 ・地域行事への参加も促していただきたい。 ・登下校のマナーについても周知していただきたい。
幼・小・中連携	校種間の交流	・校種間の連携を深め情報交換等を行う。	・幼・小の給食交流・行事交流・遊び交流 ・幼少連携委員会・PTA学力向上委員会との連携 ・小中連携委員会・中学校夏季合同研修 ・各校種間の出前授業の実施 ・校内研修会への幼稚園教諭の参加	・幼小連絡委員会を月1度開催する。 ・中学校と話し合いを持つ。 ・ありおか幼稚園には,学期に1回以上出前授業を行う。 ・中学校の出前授業を年1回行う。 ・幼小各校園の研究会に参加する。 ・幼小連携から接続へ	B	・今年度はコロナ感染症対策のため十分には行えなかった。（幼稚園との給食交流や中学校の出前授業も含め行事交流は全て中止となった。） ・中学校との連絡会は実施することができた。	・コロナ感染症対策を行いながら幼小中の話し合いを持てるような方法を考え、お互いの研究の中にも位置づけていく。　・中学校は、北中学校と南中学校に進路先が分かれており連携が難しい面があるが、児童が小学校生活から中学校生活へにスムーズに移行できるようにそれぞれ連絡を密にしていく。	・コロナ禍で開催が難しいことが多かったと思うが、子どもたちのためにも、幼小連携を引き続きお願いしたい。 ・行事交流を増やしていくことも必要です。 ・幼、中の学校運営協議会との連携を進めていきたい。 ・入学前の連携を行い、スムーズに学校生活に移行できるようにお願いしたい。 ・高学年は、中学校進学に期待と不安を持っているので、中学校との行事交流等をお願いしたい。

学校関係者評価総括

・児童が「わかる」と実感できる授業の実現に向けて、少人数指導やICT、学習ツール等を活用しながら、引き続き授業改善を行っていただきたい。定期的に研修会を開催し、先生方の授業力向上に期待します。
・授業中の子どもたちの様子から、課題に意欲的に取り組む姿勢がうかがえる。また、グループ協議において、自分の考えを言葉にしたり、他者の考えを聴くなど、「主体的・対話的で深い学び」の実践を進めていただきたい。
・いじめや不登校への対応については、保護者、関係機関と密接な連携をお願いしたい。また、日頃から先生方の児童観察により、子どもの変化を見逃さないようにしていただきたい。子どもの居場所づくりも、地域と協力して進めていただきたい。
・コロナ禍による体力低下が心配されているので、体力向上の取り組みをお願いしたい。
・HPの更新やデジタル配信については、非常に取り組まれているため、学校の様子がよく分かり、保護者としてもありがたいと感じている。
・研修会に参加した時、先生方が一生懸命に有岡の子どもたちに愛情を注ぎながら、子どもたちに何をすべきかを考えながら、子どもたちに接していることがよく分かった。これからもお願いしたい。

次年度に向けた重点的な改善点

学力向上については、校内研究を中心に「意欲向上」を合い言葉に教師の授業改善、授業力向上を目指し、子どもたちに「わかる授業」を提供できるための研修を企画していく。また、ベテラン教員の退職や異動等により、年々本校においても若手教員が増加している。喫緊の課題として、学級経営の仕方や校務分掌の継承があげられる。これらの課題が、これからの学校経営に大きな影響を及ぼすのは間違いない。効果的な人材育成のシステムの構築が必要である。また、全国学力・学習状況調査の結果より、本校の課題として「自己肯定感の低さ」があげられている。現在、学校行事や地域行事が減少しているが、来年度はコロナ禍前に近い学校運営が可能と考えている。子どもたちが活躍できる場づくりを、地域とともに企画していき、子どもたちのいきいきとした姿が見られる場を提供していきたい。学校運営協議会との連携については、今年度重点的に取り組んできたが、来年度はさらに活性化をめざし、「チーム有岡」の一員としての活躍の場を設けていきたい。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った